

# 令和7年度 第2回山口県総合教育会議 会議録

1 日 時 令和8年2月27日（金）16:00～17:00

2 会 場 山口県庁4階共用第1会議室

3 開 会 （事務局）

## 4 知事挨拶

開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に御尽力をいただいていることに対し、改めてこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、本日は御多忙の中、御参集いただいたことに感謝申し上げます。

先月、教育委員会が進められているグローバル探究プログラム・ハワイ研修の出発式に、繁吉教育長とともに出席させていただきました。県東部地域から集まった高校生たちは、実践的な英語力やコミュニケーション能力を身に付けて、異文化への理解を深めたいとの意欲にあふれていた。高校生が自身の可能性を広げ、夢と希望を持って、本県の未来に向けて大いに活躍してほしいとの思いを強くしたところである。

現在、社会や経済のグローバル化が進んでおり、刻々と世界情勢も変わっている。そうした中で、世界に向けた広い視野と身近な問題に目を向ける視点の両方を併せ持つ「グローバルリーダー」の育成は、必要性をますます増していくものと考えている。

そうした人材をはじめ、将来を見通すことが困難な時代になり、新たな未来を切り拓いていく「人づくり」は、「将来にわたって持続可能で活力ある山口県」を実現していくためにも極めて重要であると考えており、新たな人づくり推進方針に基づき、様々な取組を進めているところである。

県政の最重要課題である人口減少は厳しさを増している。人づくりにおいて、地域の未来を自ら考えて主体的に切り拓いていくことのできる人材や、地域産業を支える人材の育成など、様々な課題に対応した取組が必要になってくる。

そうした考えの下で先日発表した来年度の当初予算案において、地域や社会とつながり、協働できる「地域の創り手」を育成する取組や、工業高校をはじめとする専門高校の教育環境の整備、いじめ不登校対策などの施策の充実・強化を図ったところである。

本日は、「令和8年度重点取組方針」に関する主要な事業について、皆様から御意見を賜りたい。

また、来年度から本会議での報告が義務付けられた「学校における働き方改革」に関するプランの案についても御報告をいただくこととしている。

委員の皆様方には、幅広い見地から、忌憚のない御意見、御提言を賜るよう、どうぞよろしくお願ひしたい。

## 5 議事概要（議事進行：知事）※委員発言：● 事務局説明等：○

（1）令和8年度重点取組方針主要関連事業（案）について

（2）学校における働き方改革の推進について

○事務局から別添資料に沿って説明。

## ●和泉委員

知事、教育長をはじめ、本県で学ぶ子どもたちのために、日々努力いただいている関係者の皆様方に感謝申し上げます。令和8年度の事業について、具体的できめ細かい事業を展開していただき、重ねて感謝申し上げます。

1月に教育長とともに全国の教育長、教育委員が集まる会議に参加した。そこで、高校改革ネクストハイスクール構想を含め、それに関連して文科省から説明があった。DXやAIの社会への浸透、大きく変わっていくであろう雇用状況や求められる人材、高校での教育内容や専門性、供給等のミスマッチなど、背景に高校の無償化などもあったということだが、これから大胆な高校改革を推進することを期待して、文科省の方でもかなり大きな予算を付けたと伺った。その後、分科会に分かれて協議したが、そこでのテーマが高校改革についてであった。私は会場で司会をさせていただき、(他県の)教育委員の方に、地元ではどんな対応を考えているかを聞いたところ、多くの県はまだこれからということだったが、いくつかの県では、人口減少地域で活躍できる人材もそうだが、特色として世界で通用する子どもを育てたい、あるいは小規模校を残して、そこで本当に手に職をつけるような専門学科を残していくことで、最近志願者が増えており、必要な人材育成に注目して高校改革を進めるといった県もあった。特色のある高校や専門高校をどのように活かし、考えていくかということは、地域の特色や状況によっていろいろな重点があるのだなと聞かせていただいた次第である。本県の場合、先ほど知事がお話しされたが、人口減少や少子化対策が大きな課題の中で、高校を卒業した後の進路や学校と地域との関連、学校教育全体をどのように考えていくのかという点がこれからはますます重要になっていくと強く思った。そういった中で、活力ある山口県、就きたい仕事や働きたい職業がある山口県、住みたいな帰ってきたいなと思える山口県、充実した子育てと教育を行っている、安心安全に家族と暮らせる、そういった山口県になってほしい。教員の働き方改革、ワークライフバランスもそうだと思う。まだ時間外労働が多いようだが、そういったウェルビーイングな山口県であってほしいなというふうに思う次第である。

そういった視点で、今回の令和8年度の取組方針については、高校改革に限らず、正にそういったことの実現を目指した事業がふんだんに盛り込まれているなというふうに拝見した。実に多種多彩で、きめ細やかな事業を推進していただけるということ、県民の一人として、委員の一人として大変心強く思った。是非、教育長のリーダーシップのもとに、その先も視野に入れながら、一つ一つの事業が実り大きいものになるよう、どうぞよろしく願いしたい。

## ●村岡知事

高校の魅力をどう上げていくかというところは、教育委員会でも考えておられるところであるし、我々も産業界から専門高校にもっとたくさん人材がいてもいいという声を聞いている。地域の求める人材と個人の進みたい方向をどううまくマッチさせるかが難しいと思う。今後高校が無償化されて、私立高校の方に(生徒が)流れていく、山口県はどうなるか分からないが、全国の議論でそのような動きになってくると考えたときに、専門高校にしっかりと人が来てくれるのかなという心配もしている。そういったところもより強化していかねばならないと思っている中で、今回専門高校の魅力を上向きさせることにも

取り組むし、文科省の方でも、新しい予算をしっかりとつけて高校の魅力を上げていくこと、中身についてはこれからだと思うが、そうした中で県としての考え方を反映させることができるような財源的な措置もきっとあると思っているので、その辺りをよく議論して考えて作っていききたい。

その上で、保護者や生徒本人の希望もしっかりと踏まえながら、求められる人材をどう確保するかが難しいと思うが、よく議論をしていかなければいけないと思っている。これから具体的な基金も作って運用していく中で、そうした議論も十分やっていく必要があると感じているので、引き続き意見交換をしながら、共に同じ方向を向いて進めていきたい。

### ●木阪委員

今日、地元の小学校2年生が探究的に学ぶ授業に参加してきた。ここ数年、地元の小学校、中学校、高等学校の授業に呼ばれて、授業参観や児童・生徒の前でお話をさせていただく中で、以前と比較して今の児童・生徒達のアップデートぶりを肌で感じている。資料にある「憧れの連鎖で紡ぐキャリア教育推進事業」について、小中高と地域産業の連携とあるが、小中高と地域産業が一緒に活動することについて、今後流れが来るなどという感じが個人的にしている。

しかし、多くの方がお気付きのように、今の児童・生徒のスキルというのは大人も驚くほど非常に高いものである。その中で「憧れの連鎖」は、どちらかという大人目線で児童・生徒を見ているためこういった表現にはなるかと思う。とてもキャッチーな表現で好きではあるが、若い人たちの力を決して侮れない、そういった要素が育っていると思っている。一定のリスペクトをしながらも、大人も児童・生徒もお互いが付度をあえてしないことで大人が本気になる。そして企業も進化を求められる。一部地域にいたらぬるま湯感があるかもしれないが、そういったことから脱するきっかけになるのではないかと思う。事業という枠から一步抜け出して、日常から少し飛び出した中での活動環境が得られることは非常に意義があると思うし、それも大人の責任だなと思っている。タイトルは「憧れの連鎖」とあるが、数年後には「憧れ越え」というか、そのような感じの人材が出てくるのではないかと思っており、「やまぐちPRIDE」の醸成に関して、非常に期待している。

### ●村岡知事

憧れというのは、その地域のことを知らない、関わりがなく育っていた場合に、山口県には自分が活躍する場がないと思って（県外に）出てしまうケースが結構あると思う。実際はそうではなく、地域にすごく活躍している人たちや思いを持って活躍している人たちが常に増えることによって、地域には実はすごい思いを持った人、一生懸命な人の姿を見て感じることで、自分たちが一つの地域で活躍していく、憧れの対象のモデルを知ってもらうところをまず意識したい事業であると思う。そして、それだけに留まらず、若い人たちがもっと力を出していく、それでまた地域の方もしっかりと若い人の力を引き出して地域に活かしていくことが必要だと思う。私も高校生の話を聞くと、本当に意識が高く、改善するために良い提案を持って来るし、あるいはICTやAIを使う能力も長けていると感じるところがたくさんある。相互のやり取りが必要で、一方が憧れることも若い人の力を活かしていくことも大切であり、そのことを

通じて地域全体が良くなる方向に向かえば良いと思う。人材がしっかりと育ち、活躍するお互いの関係で高め合うことができるとお話を聞きながら感じた。憧れに頼るだけではなく、責任感ということも意識しながらこの事業を進めていく上では工夫が大切だと感じた次第であり、今後も教育委員の方とよく話をしながら進めていきたい。

#### ●藤田委員

きめ細やかな様々な取組をしていただいております、知事をはじめ教育長、教育委員会の皆様に感謝申し上げます。

民間企業は現在人材雇用に大変苦労していることを前回の会議でもお話しさせていただいたが、当社では今年の5月から今年の2月までの間に、10代から20代の9人を中途採用することができた。県外からも3名ほど下関在住の若手を採用した。面接では、すごく下関が好きだとか、彦島から出たくないという若手や社員たちの話を聞いて、県が取り組んでいる様々な事業は、今すぐ特効薬のように効果が出ないかもしれないが、少なくともうちには、この地元を愛し、ここで暮らしていこうと思っている若者がいるので、県が取り組まれていることは間違いではないと思っている。

今回当社の人材採用がうまくいった取組の一つがやはり情報発信である。当社の魅力を自分たちが認識し、ブランディングしてSNSで発信することに注力した。いろんなことを社員と一緒に考えて発信したことが成果につながったと思う。「山口県 教育委員会 SNS」で検索すると「ふれあい夢通信」がX、FacebookとLINEで出てきた。提案だがInstagramでの発信も強めてほしいと思う。理由は、若者がよく利用するSNSはInstagramが一番ウエイトを占めているからである。山口県民の特性だと思うが少しシャイな部分があり、自分たちの良いところを発信することが少し控えめなのかなと思う。これだけ素晴らしい取組を今までやってこられているので、その成果を是非発信していただき、保護者の方や山口県から県外へ出られた方にも伝わるような情報発信をしていくことも大事だと感じた。

#### ●村岡知事

情報発信はとても大事だと考えており、県の情報も現在SNSで発信している。Instagramも活用しているが、まだまだやっていかなければいけないと思っている。庁内での指示についても、いくら良いことをやっても見てもらえない、届かなければ、発信しても広がらない。いい成果が上がっていれば発信した方が、地域の誇りや愛着が生まれてくるので、いろんな面で発信をしっかりやっていこうと伝えている。また、専門的な方々からのアドバイスを受けながら、多くの人目の目に留まるような発信の体制作りも考えながら進めている。特にSNSでもInstagramは若い層が多いので、若い層にターゲットを向けて発信したり、媒体や見せ方などそれぞれターゲットによって変えていかなければいけないので、いろいろと学びながら取り組んでいきたい。

### ●伊藤委員

先日、下松市の東陽小学校を視察した。下松市に本社を置く東洋鋼板が行う出前授業では、子どもたちが自分たちの地域の価値を実感する貴重な学びとなっていた。工場の技術等が子どもたちの目の前で生きた知識となっていた。このような体験から、ものづくりは面白い、自分たちの街には誇れる企業があるとの実感が持てる。また、この学びが地域の産業を身近に感じさせ、将来の夢を育てるきっかけになると思っている。また、先月に YMfg 維新セミナーパークで開催された「地域連携教育再加速フォーラム」に参加して、各地の小中高の児童・生徒たちと地域の方々や企業がコラボした様々な取組に感動したし、その取組を見て現在の諸課題は解決できるのではないかと確信した。ステージに登壇した小学生の子どもたちの顔がとても生き生きしており、会場中に拍手が響き渡っていた。また、講師の方が山口県の教育界についてすごく勉強してこられて、山口県の教育をリスペクトしてくださっていたことをとても心強く思った。本当にありがたかった。

山口県の現在の学校における働き方改革は第3期に入っている。今後さらに改革を進めていくためには、先生方の長時間勤務の要因は授業以外の雑務にあると思っている。業務支援員の配置人数を増やしていくことができれば、先生方の負担軽減になるのではないかと思っている。

### ●村岡知事

教育委員会や各学校の取組について、私もイベントに参加させていただくが本当に素晴らしいと感じている。熱意を持って子どもたちの力を伸ばしていこうとしている。地域の方々もすごく協力されているし、子どもたちもそれを受けて、自分を成長させていこうという意識もすごく高く、いろんな発表を見てると本当に素晴らしいなと思う。先ほど情報発信の話があったが、その取組をもっと多くの県民の方に知ってもらいたいと思っている。その場の熱量や感じることをそのまま SNS で発信することは難しいかもしれないが、もっと多くの方に知ってもらい、地域での教育が大事だという広がりができるように、さらに工夫して進めていきたい。

教員の方々は様々な負担が大きいので、その負担をどう緩和していくか、支援員の配置やデジタル化を進めてより業務が効率的に行えるように様々な施策を行っていかなければならないと思う。教育に関する予算を付けているが、より一層進めて人づくりというか、正に教育の本体の部分にしっかりと教員の方々の熱意や時間がかけられるようにしていきたい。

### ●廣兼委員

重点取組方針関連事業を拝見して、山口県が本当に子どもたちを愛してくれていることがよく伝わってきた。「生成 AI 搭載やまプリ CBT による学力向上支援事業」が良いと思った。普段学校の参観日での授業の様子や家庭での宿題の様子を見ていると、単純な計算ミスや習ったはずの漢字を覚えていないことがあるし、算数の文章問題になると全く分からなくて、そこにある数字を適当に当てはめて答えを出して、できた気持ちになっていることがある。その様子を見て、(子どもは) 分からないことを分からないと言えない状況なのかなと感じた。子どもたちがタブレット端末で楽しく学べるということは、とても良いことだと思う。学年が上がるにつれて、その前の学年での学びが土台となるし、学び直しもできる。分からないと言えない子どもも生成 AI に聞いて一つ

分かることで、自ら次の勉強に進もうという気持ちになるなど思った。とはいえ、タブレットばかりに頼ることはいけないと思うので、学校と地域と家庭が協力して、同じ思いで子どもたちを見守りながら、時には背中を見せて大人の生き様を感じてもらいながら、子どもたちの成長を願っていききたい。

#### ●村岡知事

「生成A I搭載やまプリC B Tによる学力向上支援事業」は新規事業になるが、この前身の事業は生成A Iを使って子どもたちを指導する素晴らしい取組として、今年度全国知事会で表彰を受けたところである。今回はさらに山口県独自の学習プリントを使い、生成A Iが子どもたちのつまづいた問題にヒントを与えて教えてくれるものである。理想は先生が一人ひとりにきめ細かく指導できればよいが、実際はなかなか難しい。つまづいているところもそれぞれ違うし、その子に応じたつまづきに対してのアドバイスや教え方を補完できるものとしては、生成A Iはすごく力があるので、いい形で展開されて子どもたちそれぞれの熟度に応じた力の付け方のサポートになってもらいたい。生成A Iを使う場面では安全性等に配慮しなければならないが、教育委員会でも評価をされているところなので、今後も是非伸ばしてほしいなど思っている。それとともに先生がリアルの世界で対人関係や環境の中で、生きる力や学ぶ力、スケールといったところをうまく組み合わせると一番いいのかなと思う。お互いの得意な部分を組み合わせ、最適な形でできるよう試行錯誤し使いながら進めていくことを応援したい。

#### ●繁吉教育長

令和8年度の予算編成に当たり、知事には山口県の未来を拓く子どもたちの教育の充実のために、様々な御配慮をいただき感謝申し上げます。県教委では、重点取組方針主要関連事業を中心に、来年度本県の強みを活かした教育活動の一層の充実に取り組んでまいりたい。その中で3点お話させていただく。

1点目が、知事の冒頭の挨拶でもあった「やまぐちP R I D E」の醸成。人口減少は厳しさを増し、地域の担い手不足が深刻化する中で、ふるさとへの誇りと愛着を育み、本県の未来に貢献する人材を育成することがますます重要となっている。そのため県教委では「やまぐちP R I D E」という合言葉のもとで、山口県らしいキャリア教育、地域連携教育を一体的に推進することで、子どもたちが地域との関わりの中で身近な大人に憧れ、主体的に地域づくりに参画しようとする心を育てているところである。来年度はこれを事業化した上で、しっかりと取り組んでいきたい。加えて、専門高校ならではの地元企業と連携した先進技術の学び、企業理解による進路選択を促進し、引き続き高校生の主体的な県内就職・県内定住の促進に取り組むことで、ふるさと山口の創り手となる人材をしっかりと育成していきたい。

次に県立高校の特色化・魅力化の推進である。国の示す高校教育改革に関する基本方針に沿って、令和8年度高等学校教育改革実行計画を策定することとしており、教育改革を先導する拠点校のパイロットケースを本県でも創出し、県立高校の教育内容や施設整備の一層の充実に来年度取り組んでいきたい。

また、知事のおかげをもって、県立高校の特別教室の空調整備を前倒しして実施させていただく。また、第3期県立高校将来構想を踏まえた施設整備についても予算を確保していただいたところであり、着実に推進し教育環境を充実させることで本県の県立高校の特色化・魅力化をさらに図っていききたい

最後に学校における働き方改革の推進について。先ほどの教職員課長からの説明のとおり、本県教育を支える教員の長時間勤務の状況は依然として厳しい状況にある。知事には、教員の事務を補助する教員業務支援員やスクールソーシャルワーカーなど外部人材の配置に来年度予算では厚い御配慮をいただいているところである。こうした人材を効果的に活用しながら、教員が学びの専門職として、子どもたちに向き合う時間を確保できるよう全力で取り組んでいきたい。

令和8年度は教育長として、3年の任期の最終年であり総仕上げの年となる。知事部局や関係機関と緊密に連携しながら、緊張感とスピード感を持って教育の喫緊の課題や本県教育の充実に全力で取り組んでまいりたいので、これまで以上の御支援をよろしくお願いしたい。

#### ●村岡知事

教育環境の充実に教育長をはじめ、皆さんに御尽力いただきありがたく思っている。今回の予算もしっかりと目的が達成できる形で執行していただきたいし、国のほうも新しい高校教育についての基金を作って充実させていくところである。将来どうするかということ考えた上で、それに向けて取り組んでいかなければならないと思っているし、知事部局もしっかり協力していきたい。

#### ●村岡知事

閉会の時間が近づいているが、他に御発言等あれば挙手にてお願いしたいと思うが、いかがか。

(委員からの挙手なし)

#### (3) その他

#### ●村岡知事

「令和8年度重点取組方針に係る主要関連事業」と「学校における働き方改革の推進」について協議させていただき、委員の皆様から大変貴重な御意見、御提言をいただいたところである。これまでの取組の中でしっかりとできている部分もあるが、これからさらに人口減少も進み、少子化が進行していく中で、いかにして地域に必要な人材を育てていくか、一人ひとりに合った教育ということが大切になってくる。そうした中でAIや様々な技術の活用といった学校の教育環境を整備し、国のほうでも、これから目指すべき人材の育成に向けて、高校教育を充実させていくための予算が付くということで、この基金をしっかりと作り、活かしていくことで、山口県が目指す教育をより大きく前に進めていき、大きな動きに対してつなげていかなければならない。

教育委員の皆様方とは、これからの教育のあり方について、意見交換をさせていただきながら、目指すべき方向をしっかりと整え、一緒に進んでいきたいと考えているので、引き続きよろしくお願いしたい。

皆様方に感謝申し上げ、まとめの挨拶とさせていただきます。

#### 6 閉会（事務局）

(以上)

※ 上記については、事務局がまとめたものです。